

会 議 録 (概要)

会議の名称	平成 30 年度 第 3 回佐渡市図書館協議会 (臨時会)
開催日時	平成 31 年 1 月 8 日 (火) 13 時 30 分開会 15 時 40 分閉会
場所	佐渡市中央図書館 2 階講座室
議題	(1) 佐渡市図書館ビジョン (叩き台) について (2) その他
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>○ 佐渡市図書館協議会委員</p> <p>会長 木村 和夫 副会長 安藤 晴代 委員 伊貝 秀一 永井 利子 東 チヨ子 佃 邦子 深澤 隆司 稲田 修</p> <p>○ 事務局(教育委員会 社会教育課 中央図書館)</p> <p>教育長 渡邊 尚人 課長 渡辺 竜五 館長 濱崎 賢一 係長 中濱 智子 主任 伊藤 優美</p> <p>○ オブザーバー</p> <p>新潟県立図書館 企画協力課長 平田 ひろみ 新潟大学学術情報部 学術情報管理課長 磯谷 峰夫</p>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	—
備考	—

会議の概要 (発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
1	開会

	<p>2 議題</p> <p>(1) 佐渡市図書館ビジョン（叩き台）について 事務局説明</p>
木村会長	<p>1 図書館ビジョン策定の目的と背景</p> <p>2 図書館ビジョンの構成と実施</p> <p>3 図書館ビジョンの策定と報告</p> <p>これが一まとめになるようなので、ここの部分で意見を頂きたいです。</p>
伊貝委員	<p>ビジョンの構成、骨格として理念を描き、5本の柱を作る。この大きな5番の取組、6番の評価について、今まで全く考えてきていません。これをビジョンとして組み入れるべきと考えているのか、考えを聞かせて欲しいです。</p>
渡辺課長	<p>ビジョンをどう捉えるか。今、行政において図書館ビジョンも行政の仕事の業務の一つとして立ち上げていくことには変わりはありません。</p> <p>1つは大きな方向性をもたせます。チェック機能をもたせなさいという動きが業務全体の中であります。このビジョンは具体的な計画については、比較的大きな意味で載せていくべきではないでしょうか。ビジョンの作り込みとしては、この大きな方向性を下にあるアクションプランで具体的な策を練りこんで、そこを進捗管理していきます。チェック機能として、それ全体をチェックしていくという方向性です。我々は5番、6番は必要だと考えています。</p>
伊貝委員	<p>私の考えとしては後々困ることになるのではないかと考えています。こういったものにしますという理念と、5本の柱をしっかりと示すのがビジョンであり、それに対する具体的な取組の方法を評価、必要ならアクションプランに具体的なものを考えれば別々に考えるということも有りだと思います。</p>
委員	<p>平成31年度から10年ということなので、その先にアクションプランは3年毎に見直すという考えですか。そうすると5番、6番の施策というところは3年毎に書き換えるということを考えているのでしょうか。その見直しはビジョンとは切り離すところでみなさいということですか。</p>
渡辺課長	<p>今の佐渡市の将来ビジョンも含め、ビジョンとしてできるだけ具体化をやっていこうということ載せたいという意向があるのと、</p>

	<p>チェック機能を働かせなさいというのがあります。具体的な施策、今後の取組の方向性ということですが、「佐渡に暮らす子どもたち、豊かな心をはぐくむ図書館」ということで、「施策1 子どもが読書を親しむ機会の充実」これだけにして下にある2つの丸はもう一枚の具体的なものに取り込んでいくということもあります。大きな方向性だけはビジョンに表せておいて、図書館像が大きく変わったときに、基本10年は変えないつもりでいますが、具体的な5以降については若干の修正があっても、見直しながらPDCAをやっていきながらもっと時代が変われば、大きな方向性で入れていく。完了した事業があれば抜いていく。そこを3年間でやっていきたいです。これは3年間というより毎年チェックをしながら具体的な予算事業も含めながらこのようなことに取り組んでいくということ、分かりやすくするためにやっていくべきです。全体は10年、具体的な施策は3年を目処に見直していきたいです。3年で変わるかは別問題です。いろんなやり方があります。議論いただいて決まったことを中心に考えていきたいと思っています。</p>
<p>佃委員</p>	<p>私たちの委員としての立ち位置が分かりません。私たちはこのビジョンを決めるために今話し合っています。私たちは市民側として意見を出しているのか、教育委員側としてこのビジョンを見ながら、これでよいですと言っているのか、整理できていません。</p>
<p>渡辺課長</p>	<p>基本的には教育委員会にかけます。ここの協議会は原案の策定の段階で、さまざまなご意見を頂いて総意としてまとめ基本的な完成形のベースを作ります。市民の意見とは別です。ここはそれを踏まえて議論をしていきます。今おっしゃった意見は非常にありがたいです。我々もチェック機能をどうするか考えていて、図書館協議会に報告するという方法もありますし、別の委員会を作るという方法もあります。そこは今後考えなければいけません。基本的な原案をここで作っていきます。</p>
<p>伊貝委員</p>	<p>図書館協議会委員として私たちは、基本的に年2回の会議をもつことが決められています。それ以外にも会議をもつことはできますが、具体的な目標等を設定されたものに対して、その外部評価として図書館協議会が評価する。そこまでのものは果たして出来るのでしょうか。評価のための委員会のようなものが無いと今の図書館協議会の中で、指標を作ったものに対して評価をするなんてできるのでしょうか。むしろ協議会をもう少し軽めにしたほうがいいのではないかと思います。それを考えると5番、6番は別に切り離して考えたほうがいいです。</p>

木村会長	現実的には図書館協議会の委員の任期は2年です。3年で評価をすると、たった1回しか出ないで2回目のときに3年後の評価をしなければなりません。凄く責任が重いです。
伊貝委員	今回目指すべきものを作ってしまうと、それに目掛けて毎年の事業計画はどのような取り組みをするのか、それをビジョンに照らしてこういうものをやりますと。それではいけないのですか。
渡邊教育長	国の法律が変わり、教育委員会は点検評価をしなければいけないと平成28年くらいに決まったと思います。毎年、点検評価というものを外部の協会の方に評価してもらっています。最終的に外部の方に点検評価を増やすというのも方法かなと思います。図書館ビジョン10年、アクションプランをまとめて点検評価をするということではなく、毎年の点検評価を行っていくという表現だと捉えています。10年に1回、3年に1回こういう委員会を開いて点検するというものではありません。
木村会長	ビジョンの中に必ず重点的に入れてあるなら、当然評価はしています。施策は3年毎に取り組んでいますと書かなくて良いなら、無理してこの3年と入れなくてもいいのではないのでしょうか。
渡邊教育長	6番目の具体的な事業評価について、予算に対してどれくらいの効果があったという考えの評価もありますが、そうではなくて、そのお金の面と文化的な効果、両方を考えていかなければいけません。常時見直しをしていくよということです。
東委員	これは表題が、仮称ですがあくまでもビジョンというふうに区切っているから、今のような2本立てがちょっとおかしいと思われるのではないかなと思います。ビジョンがあつて取組の方向性が必ずついてくるわけですから、取組の方向性が出てそれに基づいて取り組む、それに対して評価をする。評価、反省というのは次に向けての新しいステップになる。そこを重要視していると思っています。ビジョンの中に5番、6番を含めるかどうかについては、図書館ビジョンを言葉はそのままですが、「ビジョンと取組と方向性」ということにすれば全く問題ないのではないのでしょうか。これが1冊になったとして、見る方も非常に分かりやすいのではないかと思います。
東委員	ビジョンだけを見ても、なかなか具体的に頭の中にイメージができにくいです。やはりその後、どのように取り組むのかとい

<p>渡辺課長</p>	<p>うことがあって少しずつ、こういうふうに進めていくのだなと思うので、ビジョンあって具体的な行動計画があれば、振り返る反省評価は必ず必要です。ビジョンと行動計画と評価の2本立てが可能なら、そちらがいいです。行動計画が見えないとビジョンが具体的に なっていないからあったほうがいいと思います。</p> <p>基本的にビジョンは大きな方向性だけ示せばいいです。点検評価するのはこの部分です。この部分の点検評価はこれだと、ビジョンをやるとなると数値の目標を入れていく必要があります。業務チェックとはその毎年やっていく事業をチェックします。これからやっていく内容にはなります。ただし図書館の話は我々だけではなくて外部の人から意見を頂きたくて、有識者ということは書いてあります。チェックを重たく感じているようだが、具体的な事業内容に関して5件だったのが3件だった、そういうことを今は考えています。書き方をもう少し具体的に明確にしていきます。事業は毎年変わっています。ただ大きな方針は方針で事業を組んでいきますよと、お示しするのはこのビジョンです。これ全部切ってアクションプランにして残りを全部別の方向にするというのがありますが、細かい事業をビジョンに入れると毎年変わりますので、ビジョンを変えなければいけません。それは全く得策ではないです。</p>
<p>平田課長</p>	<p>一般的にビジョンというと、確かに像を示すところでは、それを 実現するために、こういった方向でやって評価をします、というところまでは入れてもいいという気はします。こういったしっかりしたビジョンを作るときには、方針として含める方がいいと思います。佐渡市の図書館ビジョンは何ですか。と市民に聞かれたときに示す部分は4番までの内容になるのかなと思います。</p>
<p>木村会長</p>	<p>学校で作っている教育計画とビジョンはイメージが違います。今までの経験とか委員さんのご意見を聞いて、どのようなお考えでしょうか。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>具体的にはしません。全体像とか。細かいことは学年ごとで。中間の意見ですが、5ページからの取組の方向性の中でビジョンは10年間通して使う。3年毎に見直しをする。例えば施策1の下の丸とかは無く、1、2、3、4と羅列して行って、詳しいことは行動計画なりこういった形で別冊になるかもしれませんが、それであれば10年間充分通じるのかなと思います。あまり具体的なことは書かない。</p>

稲田委員	<p>ビジョンというとパンフレットのようなものをイメージします。10年間それは変わらない、ということであれば、5ページからの方向性のところ白丸をカットすることも1つの手です。白丸をつけるなら例示という形でつける。白丸をつけるとやるというふうに捉えてしまうので、これで10年間にけるのかという不安もあります。例示にしておいたらイメージしやすいと思います。</p>
伊貝委員	<p>取組の方向性。5本の柱でそれぞれ説明されていますが、その下あたりに取組の方向性をいくつか挙げておく。別紙にあるような事業計画的なものを作るのであれば、分離したもので挙げる。そういうやり方では不足でしょうか。</p> <p>教育委員会側では一体なものと考えておられるわけですので、一旦はこのままで議事を進められたらどうでしょうか。最終的には教育委員会に決めてもらうしかないです。</p>
木村会長	<p>もう少し4、5、6の中を事務局のほうで説明していただきたいです。3から10ページまで一括の説明をお願いします。</p>
濱崎館長	<p>5番、取組の方向性、施策1なり3なりを柱の下に載せたほうが良いということですか。</p>
木村会長	<p>一番初めにこの説明はしてないですね。なぜその5本の柱なのか。5本の柱の意味をまず話して、5ページからの具体的な内容を説明してください。</p>
濱崎館長	<p>(事務局説明)</p>
木村会長	<p>アンケートを実施した内容が5本の柱に活かしているか。バランス、順番はこれでいいのか。説明が合致しているか。意見をお願いします。</p>
伊貝委員	<p>理念、一番大事なところですか。問題は説明です。説明のところでどういう人づくりが期待されているのか。佐渡の人づくりは何ですか、という説明をもう一言欲しいです。</p>
木村会長	<p>理念、どうですか。流れから言えば、大きいものから下へ。自然と歴史で育ってきたものを大事にしながら、そういう子どもたちを育てて行きたい。そんなものでもいいのではないのでしょうか。</p>
伊貝委員	<p>具体的な提案で、最も少ない言葉にした場合に例えば「心豊かな人づくり」に少し佐渡らしいものを入れてはいかがという提案です。</p>

渡邊教育長	<p>進行の仕方としていろいろな意見があるのは仕方ないですが、一人の意見で全部変えなくてはいけないということはありません。意見をいただければ、我々のほうで考えて修正が必要であればしたいと思います。</p>
木村会長	<p>分かりました。他に意見ありますか。 5つの柱に行きます。</p>
伊貝委員	<p>2と4が「誰もが利用しやすい」「市民とともに歩み愛される図書館」のイメージが重なってしまいます。「地域の特性を活かした図書館」あるいは「地域の特性を活かす図書館」というような言葉を、例えば2番の柱にします。4番は、「市民とともに歩む」、ここを「誰もが利用しやすい愛される図書館」という柱でもいのかなと思います。</p>
平田課長	<p>5本の柱は、図書館の世界で言うと、今、全ての課題が網羅されて完璧な内容になっているのです。 「1 人材の育成」は子どもたちのために図書館として力を入れていきたいところ、というように。</p>
磯谷課長	<p>佐渡市の地域性を考慮とは、佐渡市内で両津地区はこう、相川地区はこうってことが佐渡市の地域性なのですか。 最後の「中央図書館を拠点としつつ地域の特性を活かした」、ここでまた地域の特性を活かしたと付きますが、これはどういう意味合いで使っているのですか。</p>
濱崎館長	<p>佐渡市の地域性を考慮しは次の言葉に繋がってくるのですが、図書の受け取りや返却可能な体制とあります。佐渡の地理的条件で都市部にある図書館に遠いところがあったりします。その辺の地域性を考慮して、いつでも受け取れるような体制を作るのは必要じゃないかと考えました。これが最初の地域の特性です。 後の「地域の特性」というのは、全部の図書館(室)は違うので、その利用によって特色を活かした図書館(室)を目指した形を進めていければという「地域の特性」という言葉です。</p>
磯谷課長	<p>アンケートでも、今ある図書館(室)が存続されるかどうかと思っている方もいます。そういう方からすれば地域の特性は敏感に反応されます。踏み込んだ表現は難しいとは思いますが。</p>

伊貝委員	言葉には出さなくてもいいですが、宅配やWeb配信でどんなに遠くても借りられるということを包含するようなことが必要です。
平田課長	確かにこれを読むと、「物」としての貸し借りを固定しているような文章かなという印象を受けます。県立図書館もサービスする圏域が広いので来館せずに利用していただけるサービスをやっているということで、デジタルライブラリーをやっているのも、その理由の一つです。電子書籍をやらないのか、と言われていますが、図書館として用意できる資料や量がないと判断していてまだやっていません。とにかく来館しないとダメではないメニューを増やしていこうと考えています。佐渡市も広いので、そのようなことを念頭に置いたものもいいのかもしれない。
平田課長	柱の下に、施策の太字のものを入れるとか、それぞれの施策の方針をうけて具体的な事業計画というものを入れていく。何となく繰り返しになっているだけのよう。
?	ビジョンという言葉にこだわらなくてもいいかなと思います。
濱崎館長	運営方針、基本方針、いろいろな言葉が出てきた。整備的なものがないのは何か、となったときにビジョンという言葉が出たはずで
磯谷課長	読んだ方がイメージしづらいので、5番に書いてあることはあった方がいいです。ただイメージのしやすさというのは、諸刃の刃みたいなもので、どうしても5番の施策の方へ目がいってしまい、パブリックコメントで吸い上げたい内容ではない部分の方に意識がいてしまいます。途中レイアウトを変えるというような話になっていたので、そういうふうに加えていけば回避できるかなと思います。
濱崎館長	(2) その他 ・両津図書館移転について
安藤副会長	閉会のあいさつ